

特集

学校給食センター
ゆめミール 10 周年

こどもたちの 食を支えて

●問合先

学校教育課学校給食グループ (☎ 66-7331)

みんなのもとへ
届けます！

「おいしい！」の
笑顔のために

毎日、心を込めて
安全・安心な給食を

い〜わくんの食器が
可愛い♪

こどもたちが毎日楽しみにしている給食。その一食には、約4カ月前から始まる準備と、多くの人の思いが込められています。

学校給食は、こどもたちの健やかな成長を支える大切な存在です。栄養バランスはもちろん、食物アレルギーへの対応、季節感や旬の食材などにも配慮しながら、安全でおいしい給食づくりが行われています。献立は、残食の状況やこどもたちの感想も参考にしながら、考えています。

学校給食センター「ゆめミール」は、老朽化した八剱町の学校給食センターに代わり、大地町の市営プール跡地に建設し、平成28年9月から市内小中学校へ給食提供を開始しました。今年で開設10周年を迎え、現在は、1日約3600食の給食を届けています。

開設から10年。これまでも、そしてこれからも、ゆめミールはこどもたちの成長を「食」で支え続けます。今回は、給食ができるまでの舞台裏や、給食に込められた想いを紹介します。

ゆめミールを ～給食が届くまで～ 見てミール！？

この日の献立は
愛知を食べる
学校給食の日！

愛知県でとれた食材をたくさん使った
「地産地消」を意識した献立でした！



毎日の給食はどのように作られて、
こどもたちに届けられているのでしょうか？
調理員の皆さんの仕事を追っ
ながら、給食が届くまでを紹介します。

1 納品

START!



食材の量、品質、温度などを確認
したり、頼んだものが正しく届いて
いるかをチェックします。

3 上処理



食材を機械を使って切ります。
大量の食材を丁寧に確認していきます。

2 下処理



野菜を洗ったり、肉・魚に下味を
つけます。

4 調理



大きな釜や調理機器を使って調理します。蒸したり焼いたりスチームコンベクションオーブン、揚げ物はコンベアで食材が移動するフライヤーを使用します。温度管理や味付けに気を配り、最後に味見をして、最終調整します。

6 配送

GOAL!



給食の時間に間に合うように
学校へ出発！

5 配缶



出来上がった給食を、学校・
クラスごとに分けます。



好きな給食 肉じゃが

早川 栄養教諭

好きな給食 コーンポタージュ

早崎 栄養教諭

いつから考えるの？

メニューを決めるのは誰？

おいしさの秘密は？

もっと知りたい！ 給食のヒミツ

こどもたちにおいしい給食を届けるため、その裏側ではさまざまな準備や工夫が行われています。日々給食づくりに携わる栄養教諭の先生に、給食への想いや、仕事の内容を聞きました。

Q

給食づくりはいつから始まるのですか？

A

実は、給食の準備は約4カ月前から始まっています。まず栄養教諭一人が献立案を考え、それから二人で話し合いながら内容を決めていきます。その後、学校の給食主任や保護者の代表、調理員などが参加する献立作成委員会で意見をいただき、献立を確定します。ここでは、こどもたちからの感想や残食の状況なども共有されます。さらに、物資購入選定委員会で食材を試食しながら選び、発注を行います。当日に向けては、調理員と調理手順等の打ち合わせを重ね、多くの人の協力のもと給食を届けています。

Q

献立を考えるときに大切にしていることは何ですか？

A

一番に考えているのは、こどもたちの成長につながる栄養バランスです。ただ、栄養があってもおいしくなければ食べてもらえません。そのため、たれなどで味付けを工夫をしたり、揚げるなど調理方法を変えたりすることで、苦手な食材でも食べやすくなるよう心がけています。また、季節感や彩り、旬の食材も大切にしています。地元で育てられた野菜や行事食を通して、地域や季節、昔ながらの文化も感じてもらえたらと思っています。

Q

こどもたちの反応はどのように知るのですか？

A

私たちは毎日所属している学校に行くので、給食の時間にこどもたちから直接感想を聞くことがあります。「おいしかった！」とか「また出してね」と言ってもらえると、とても励みになります。反対に、「これは苦手だった」と教えてくれる子もいます。そうした声や残食の状況を、次の献立づくりに活かしています。また、教室を訪れたときに、食材について質問してくれたりすることもあります。こどもたちが給食に興味を持ち、食について考えてくれている姿をみるのが、私たちのやりがいになっています。

Q

給食を通じて、こどもたちにどんなことを感じてほしいですか？

A

給食を通して、いろいろな食べ物に出会い、挑戦してほしいと思っています。苦手だと思っていた食材も、味付けや調理方法によって「これなら食べられた！」という発見につながることもあります。その経験は、食だけではなく、さまざまなことに前向きに挑戦する自信にもつながると思います。また、給食だからこそ、友達と一緒に食べる中で「食べてみよう」という気持ちが生まれることもあります。毎日の給食が、新しい食べ物や地域の魅力を知り、自分の世界を少し広げるきっかけになれば嬉しいです。

ふるさといわくら応援寄附金（ふるさと納税） を活用しています

令和7年度から、ふるさといわくら応援寄附金の活用事業に「学校給食の応援」を新たに設けました。その結果、10,406,000円もの温かい寄附が寄せられました。いただいた寄附金は、学校給食応援基金に積み立て、計画的に運用します。学期毎に実施しているセレクト給食や9月に予定しているアイスの提供など、こどもたちにとって思い出に残る魅力ある給食を提供するために大切にに使わせていただきます。

